



2024年5月24日  
美 郷 町  
西日本旅客鉄道株式会社

## 美郷町とJR西日本が連携し森林再生実証実験に取り組みます

美郷町は産官学民の力を結集し「ピンチをチャンスに変える」分野横断の共創の環境づくり「美郷バレー構想」をはじめ、「ゼロカーボン促進事業」として太陽光発電の導入、再生可能エネルギーとスマート農業を駆使した「ゼロカーボン農業モデル」など、様々な環境の取り組みを進めています。

JR西日本では「私たちの志」、「長期ビジョン2032」で「持続可能な社会システムの構築」を掲げ、環境をはじめとするサステナビリティ経営を推進しています。

今回、美郷町内にJR西日本が所有する森林（鉄道林）について、水源涵養、土砂災害防止、生物多様性の確保、CO<sub>2</sub>吸収など森林が持つ多面的機能を効果的に発揮させることをめざして、美郷町とJR西日本が連携して森林再生実証実験に取り組むことといたしましたのでお知らせします。

### 1. 実証実験の概要

場 所：旧三江線竹・乙原間 竹1号林（島根県邑智郡美郷町乙原）

面積約5.8ha、スギ、ヒノキ等の人工林、樹齢50年程度

期 間：2024（令和6）年5月～2025（令和7）年3月末日

（伐採作業は2024年秋頃を予定しています）

実施者：美郷町、西日本旅客鉄道株式会社地域まちづくり本部地域共生部

実証実験は広島大学、鳥取大学との共同研究として計画しています。

森林施業は邑智郡森林組合へ委託する計画としています。

主な研究課題：

- ①線路敷を活用した木材搬出技術の実証、評価
- ②線路敷周辺の森林資源活用可能性評価
- ③野生動物対策を考慮した再造林計画の検討等

参考資料：別紙

### 2. 今後の展開

今回の実証実験により線路敷を活用した森林施業の可能性が示されれば、沿線の森林（鉄道林）の伐採・再造林等を進め、健全な森林の育成を通じて、木材生産、水源涵養、土砂災害防止など森林の持つ多面的な機能の維持・増進に取り組んでまいります。

また、こうした森林を活用した取り組みと、美郷町の美郷バレーの取り組みを有機的に連携させ、関係人口、交流人口の拡大等の取り組みを進めてまいります。

以 上

今回ご案内の取り組みは、SDGsの17のゴールのうち、特に13、15、17番に貢献するものと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



鳥取大学と西日本旅客鉄道、広島大学が共同研究を開始  
森林（鉄道林）再生で地域貢献を目指す！

### 【概要】

森林は土砂災害防止、CO<sub>2</sub>吸収など様々な役割（多面的機能）や木材供給を担っています。ところが、適切な管理が行われない森林では表土流失や倒木などの災害リスクも高まります。鉄道会社が線路や列車の安全を確保するために所有する森林（鉄道林）も様々な機能を有していますが、それらの機能を持続的に発揮、維持するための効率的な管理方法の確立が求められています。

そこで、鳥取大学は西日本旅客鉄道株式会社（以下、JR西日本）および国立大学法人 広島大学と2024年5月1日付けで共同研究契約を締結し、JR西日本が所有する森林（鉄道林）を対象に森林再生実証実験を進めることに合意致しました。

本取り組みによって森林（鉄道林）が持つ多面的機能、木材生産機能を効果的に発揮させ、地域に貢献することを目指して参ります。

### 【詳細】

場 所：旧三江線竹・乙原間 竹1号林（島根県邑智郡美郷町乙原）

面積約5.8ha、スギ、ヒノキ等の人工林、樹齢50年程度

期 間：令和6年5月～令和7年3月末日（伐採実証は令和6年秋頃）

主な研究課題：

- ①鉄道林および周辺森林の森林資源の活用可能性評価
- ②線路敷を活用した木材搬出技術の実証、評価
- ③野生動物対策を考慮した再造林計画の検討等

参考資料：別紙

### 【今後の展開】

今回の実証実験をとおして鉄道林からの木材生産技術や、周辺森林を含めた森林の多面的機能の維持・増進技術を確立して参ります。これにより、健全な森林の育成に繋げると共に、森林（鉄道林）や沿線の他の森林の木材生産・再造林等の促進に貢献することが期待されます。

今回の取り組みを契機にJR西日本を中心に森林（鉄道林）を舞台にした都会と中山間地域の住民が参加する森林活用ワークショップなどの開催による関係人口、交流人口の拡大にも取り組んで参ります。

# 森林再生実証実験の概要

## 【実証実験実施箇所】

旧三江線竹・乙原間 竹1号林  
(島根県邑智郡美郷町乙原)



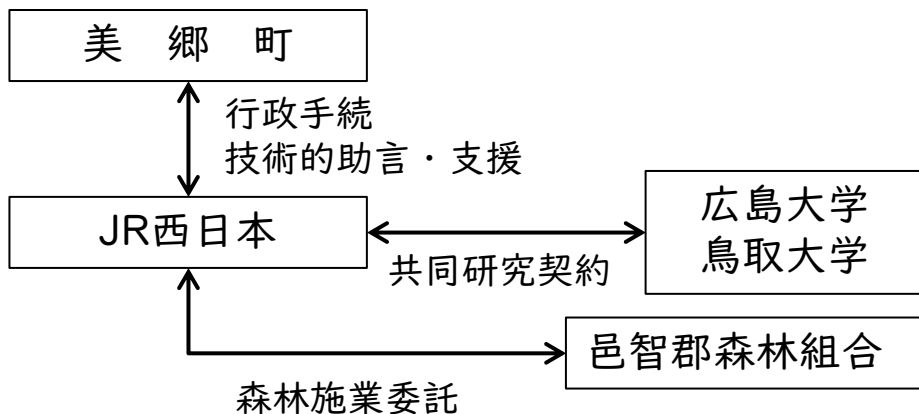
国土地理院ホームページより



対象の森林  
(鉄道林)

線路敷

## 【実証実験体制】



## 【実証実験スケジュール】

	令和6年度				次年度以降
	1Q	2Q	3Q	4Q	
★ 文書整理 契約手続					
事前準備・調査 行政手続	■				
秋頃 伐採、再造林			■		
評価 考察					今後の展開 →

# 実証実験の手順と共同研究テーマ

## 【実証実験の手順】

### ①沿線森林資源評価

現地踏査



ドローン調査等



施業計画



再造林計画



資源量推定

### ②森林施業評価

伐採



集材



小運搬



積み込み



搬出



## 【研究テーマの例】

線路敷を活用した木材搬出技術の実証、評価

線路敷周辺の森林資源活用可能性評価

野生動物対策を意識した再造林計画